

「なすかしの森 セカンドスクール2021」報告書

実施日：令和3年10月中旬～11月中旬

【目的・趣旨／概要】

「なすかしの森セカンドスクール」は、参加児童のみならず教師・保護者・教育支援スタッフ・施設職員が学び合う場として、「五者の育ちの場」となるよう、5つの視点の目標を掲げて実施。

【連携先】

- ・三菱製紙株式会社 エコシステムアカデミー
- ・日光国立公園 那須平成の森

【参加校・日程】

西郷村立小学校および棚倉町立小学校 合計8校 5年生合計276名

学校名	期間	日程	学級	児童数	教育支援スタッフ
棚倉町立近津小	10月18日(月)22日(金)	4泊5日	1	24	2
棚倉町立高野小	10月18日(月)～22日(金)	4泊5日	1	9	2
棚倉町立社川小	10月28日(木)～29日(金)	1泊2日	1	17	0
西郷村立川谷小	10月25日(月)～29日(金)	4泊5日	1	11	1
西郷村立米小	11月8日(月)～12日(金)	4泊5日	2	37	4
西郷村立熊倉小	11月8日(月)～12日(金)	4泊5日	3	74	6
西郷村立小田倉小	11月15日(月)～19日(金)	4泊5日	3	76	5
西郷村立羽太小	11月15日(月)～19日(金)	4泊5日	1	12	2



【プログラム概要】

① スクールタイム【教科等に関連付けた体験活動プログラムの実践例】

「沢歩きハイキング（理科：流れる水のはたらき）」

既存プログラムである「沢歩きハイキング」コースの一部を活用して、「流れる水のはたらき」の学習を行った。指導を担当する研修指導員に対しても研修を行い、理科の教科としてのねらいに沿った内容を体験学習することができた。実際に自然の中での流れる水を目の当たりにし、学びを深めることができた。

（実施校：近津小・小田倉小・米小・熊倉小・羽太小・川谷小）

「エコシステムアカデミー森のめぐみの体験学習（社会科：私たちの森林と生活）」

連携企業である三菱製紙(株)エコシステムアカデミーによる「森のめぐみの学習」を、社会科の教科としてのねらいを達成できる内容に再構成していただき、講義と紙すき体験を合わせた体験学習を行った。理論的な学びと、実際の活用方法としての紙すき作りを通して、学びを深めることができた。

（実施校：近津小・高野小・小田倉小・米小・熊倉小・羽太小・川谷小）

② なすかしの森タイム【長期集団宿泊体験】

「ナイトハイク」

宿泊体験だからこそできる夜の森を歩く体験を行った。満天の星空を見ることができた学校や、五感を研ぎ澄ませながら暗闇を楽しむ学校など、普段の生活ではできない経験となった。

「キャンプ or キャンドルファイヤー」

火を囲み、楽しい時間を過ごすと共に、プログラム全体を振り返る中で、仲間を感じたり、自分自身の変容などに気付くことができた。

【企画・運営上工夫したこと】

- ・保護者説明会等でコロナ禍における当施設の感染対策を丁寧に説明した。特に教育支援スタッフの条件として、2回の新型コロナウイルス感染症予防接種済みの学生に限定し、抗原検査を実施することで学校・保護者の理解をいただいた。また、実施の際は、3密や他団体との交流を避ける配慮をした。
- ・西郷村校長会と連携してスクールタイムにおける共通プログラムを実施した。
- ・「沢歩きハイキング」において、研修指導員の事前研修会を実施した。昨年の反省をもとに、イヤホン音声ガイド受信機を購入して、児童がより聞き取りやすいように取り組んだ。
- ・教育支援スタッフの負担をできるだけ軽減しながら、教育効果が高まるように、やるべきことなどを精選した。

【成果】

- ・児童の意識調査として、「基本的な生活習慣」「自己肯定感」「コミュニケーション」について、事前事後の変容を見たが、各項目で上昇が見られた。
- ・教科等に関連付けた体験活動プログラムの検証ができた。特に研修指導員の研修会を行ったことで、教科のねらいを踏まえた活動の展開とすることができた。
- ・教育支援スタッフにとっては、教員を目指す気持ちを高めたり、それぞれの教育観・価値観を作り上げる大きなきっかけになった。
- ・学校の教員にとっては、単元学習の中に体験学習をどのように取り入れるかなどの、カリキュラムマネジメントの視点を持つきっかけとすることができた。

《参加者の声》

「キャンドルファイヤーが心に残った。」「(体験的な学習に対して) 楽しくて、わかりやすかった。」「普段より、たくさん考えて話げできた。」等

【課題と方策】

- ・体験活動において、どの程度大人が介入するのかという点で、先生方、各講師、施設職員とがねらいをしっかりと共有するということが課題が残った。
- ・今年度の教育支援スタッフは、実習生が多く、はじめてのボランティア体験・施設利用のため、戸惑う姿も見られた。1か月前に支援スタッフの事前研修会を実施する必要がある。

国立那須甲子青少年自然の家 [作成] 企画指導専門職：江口俊文